

令和2年度

施政方針説明書

令和2年3月

町長就任から3年となり、来年度は（1期目の）集大成の年度となります。

町長就任にあたり町民の皆様にお約束した「住みやすさ向上」や「教育・子育て環境の充実」などの実現のため力を尽くしてまいりました。

3歳以上の保育料無償化、高校生の通学費助成など、国や県の制度が後から追いつくような一歩先行く施策を展開し、合併後初めて人口が社会増となるなど少しずつ実を結んできていると実感しております。

また、今年度は、第5次の行財政改革大綱をはじめ、総合計画実施計画、公共施設総合管理計画個別計画、第2期子ども子育て支援事業計画の策定や見直しなどにも取り組んでまいりました。

合併後15年を迎え、来年度からいよいよ普通交付税の合併算定替措置がなくなり、会計年度任用職員制度が始まるなど、大きな転換点も迎えることとなりますが、大山町が自立して発展していくよう引き続き努めてまいる所存であり、そのような方針をもって、令和2年度当初予算の編成に臨みました。

(令和2年度の取組みについて)

【まちの強みや魅力を活かした人口減少対策について】

令和2年度は、就任以来、積極的に取り組んでまいりました人口減少対策をさらに進めるとともに、大山町に住んでよかったと思えるまちづくりを力強く前に進めてまいります。

移住定住を促進するため、移住定住関係の補助制度の見直しや、民間事業者による宅地造成の推進を図るとともに、新たにPFI事業などの公民連携に取り組んでいくための、最適な進め方の検討を行ってまいります。

大山町の基幹産業でもある農林水産業の後継者対策として、新規就農者や新規就業者を増やしていく対策を進め、農林水産業の振興に努めてまいります。

中学生たちと大山町の未来を考える「こどもと楽しいまちプロジェクト」を引き続き進め、つながりの機会を増やし、誰もが暮らしやすい地域づくりをさらに発展させるとともに、地域の子供は地域で育てる環境づくりのため、子育て支援策を引き続き充実させてまいります。

【交流人口の増加に向けた取組み】

国立公園大山を有する本町において、大山開山 1300 年祭で再認識された大山の自然、歴史、文化、食などの魅力を引き続き磨き上げ、大山町を訪れる国内外旅行客の満足度向上に努めてまいります。

併せて、スキー場エリアのグリーンシーズンの活用も含めた、アウトドア・アクティビティの推進に努めるとともに、大山圏域の自治体及び各団体との連携をさらに深め、観光関連産業の発展に取り組んでまいります。

また、町内に数多く存在する貴重な文化財の保存、修理、調査を行いながら、公開・活用に取り組み、それらの価値の周知に努めてまいります。

また、ふるさと納税制度を交流人口の拡大にも活用し、町内外に広く周知し、普及促進を図り、寄付者の増加に取り組むため、ふるさと納税感謝会を大山町で開催する予定です。

【持続可能なまちづくりと住みやすさの向上】

持続可能なまちづくりと住みやすさ向上のため、地域コミュニティや産業の崩壊が進む中、これらの地域課題解決の一つとして、既存施設をリノベーションして創業する取り組みに支援を行います。

また、農業振興に大きな影響を与える有害鳥獣の駆除を更に強化しながら、農業者の所得向上のために各事業を推進してまいります。

具体的には、イノシシ等の有害鳥獣の捕獲活動及び捕獲奨励金の交付、侵入防止柵の設置を進め、鳥獣被害の防止を図ります。

令和 2 年度には、新たに、農地の貸借に関する事務を農業委員会に集約し、農地の管理と担い手への集積の推進を図ってまいります。

水産関係では、御来屋漁港の浚渫工事、がんばる漁業者支援事業、漁業研修事業等に取り組み、担い手の確保や水産振興の強化を図ってまいりたいと考えています。

経営管理が行われていない森林が増加している昨今、この現状に歯止めをかけるため町が仲介役となり、所有者と民間事業者をつなぎ、林業の成長産業化と森林の適切な管理を図ります。

令和 2 年度は、計画的に道路を維持管理していくため、新たに町道舗装修繕計画を策定し、計画的な舗装修繕を行うとともに、引き続き橋梁点検を実施していきませんが、直営点検を実施することで、コスト縮減に努めます。

安全な道づくり街灯設置事業により、道路利用者が安心・安全に利用できるよう、引き続き、通学路を中心に街灯の増設を行ってまいります。

また、公共交通の利便性向上の一環として、JR 下市駅については、ホーム南側から乗降できるように整備してまいります。

持続可能なまちづくりのためには、安定した行財政運営が必要不可欠となるため、第 5 次行財政改革大綱に沿った行財政改革を推進するとともに、計画的な公共施設管理を行うため、令和 2 年度は、稼働休止中の一般廃棄物焼却施設であります、中山清掃センターの解体撤去を行う一方で、国の交付金を活用して町財政の負担を減らしながら、中山中学校の校舎の大規模改修工事を進めてまいります。

順次、照明の LED 化を進めている公共施設では、令和 2 年度に大山農業者トレーニングセンターの LED 化工事など、施設整備にも取り組んでまいります。

開館から 20 年が経過した中山温泉は、今後も温泉事業を継続していくために、平成 9 年の温泉開発以来となる揚湯試験を実施するための計画策定に取り組めます。

【地域力の向上による防災・教育・福祉の充実】

安心・安全なまちづくりのため、地域力の向上による防災・教育・福祉の充実を引き続き進めてまいります。防災・減災対策は欠かせません。

平成 30 年度の台風 24 号で浸水被害を受けた、下市駅前周辺の雨水対策を進めてまいります。

また、交通安全対策として、高齢者のブレーキ踏み間違い防止及びドライブレコーダー補助を進めてまいります。

令和 2 年度は「大山町高齢者福祉計画・第 8 期介護保険事業計画」及び「大山町障害者計画・第 6 期障害福祉計画・第 2 期障害児福祉計画」策定の年です。

元気で明るく、誰もが安心して住みなれた町で暮らすことができるよう引き続き取り組んでまいります。

あらゆる差別のないすべての人の人権が尊重される社会の実現に向け、人権セミナー、人権・同和教育推進大会や小地域懇談会を引き続き実施し、人権教育・啓発を推進させていきたいと考えております。

町民の健康づくりでは、引き続き各種健診事業を実施し、新たに胃がん検診の際にピロリ菌検査を実施し、胃がんの早期発見と併せて発症リスクの低減を行い効果的な胃がん対策を推進します。

また、特定健診の未受診者に対し、人工知能を活用して個々の特性に合ったメッセージを用いて受診勧奨を行うとともに、次年度予約システムにより集団健診時に次年度の健診予約を受け付け経年的な受診勧奨を行い、健康増進を推進していきます。

子育て支援策として、インフルエンザ予防接種の費用助成を、高校生相当年齢までに拡大するとともに、乳幼児健診及び学校健診結果の電子情報を、保護者や本人へ提供する取り組みを始めます。

スマートフォン等で健診記録を閲覧、保存することで、将来にわたる自身の健康管理につなげてまいりたいと存じます。

社会教育分野では、東京2020オリンピック・パラリンピック開催年を機に、オリンピック聖火リレーや巡回ラジオ体操などの実施を通じて、スポーツ人口の拡大に図ってまいります。

公民館では、活動について地域自主組織との連携を深めるとともに、図書館では、家庭読書「家読」^{うちどく}推進の一環として、図書購入増額により乳幼児や児童向け図書資料の充実に取り組みます。

さらに、読書履歴通帳を導入して、幅広い年代層の読書意欲の高揚に努めるなど、本のあるまちづくりを推進してまいります。

【広報・情報発信の強化とICT・AIを活用した事業の効率化】

情報発信においては、関係人口の増加に向けて「大山チャンネル」のYoutube発信を行うとともに、リニューアル後の町公式ウェブサイトにおいて、使いやすさの向上に引き続き取り組み、必要な情報に素早くたどり着ける環境づくりを目指します。

引き続き定期的に定例記者会見や、町民の皆さんとの意見交換を行い、町施策の情報公開と、町民満足度の高い政策展開を積極的に行ってまいります。

これから先、住民サービスの高度化・多様化、職員数の減少により、一人の職員が担う業務が増えることが予想されますので、AIやRPAの活用を図り、大山町の課題解決に向けて職員がその能力を十分に発揮し、職員一人一人がやりがいを感じ、創意工夫によって新たな課題に向き合えるような環境をつくるとともに、県内市町村で各システムの共同化を図るなどのコスト削減を追求しながら、情報セキュリティの強化を進めてまいります。

人口減少対策をさらに前に進め、誰もが地域に誇りをもって住み続けられるまちづくりに、令和2年度も引き続き取り組んでいく所存です。議員のみなさん、町民のみなさんのより一層のご理解とご協力をお願い申し上げまして、施政方針の説明とさせていただきます。

大山町長 竹口大紀